

春吉地区でホテル事業を始動

福岡市の商都・天神や西日本一の繁華街・中洲へのアクセスが良好な“春吉地区”の地の利を生かした、ホテル事業「春吉宿場町計画」がいよいよスタートする。

「当地区一帯の街並みは、江戸情緒あふれる“宿場町”に類似。

ラグジュアリーさ、和モダンを備えた宿泊施設を展開することで、インバウンド客から人気の高い宿場町らしさを一層演出できる」と国内客はもとより、欧米や東南アジアを中心とした訪日外国人の宿泊需要を取り込む考えだ。来客には宿場町を体感させるべく、浮世絵師・歌川広重が描いた「東海道五十三次」の観賞用作品を各ホテル内に展示するなど工夫を凝らすという。そのほか大重社長がシステム開発会社出身のため、IoTの活用など最新のテクノロジー導入にも意欲的だ。今後は社長の名字“大重”と“春吉”からブランド名の着想を得た「春重」シリーズをもとに、現段階の計画では今年度2棟、来年度4棟の竣工を予定。

第1号ホテルは今年完成を目指し、春吉3丁目に建設している。

建物は鉄骨造の8階建てで延べ床面積480㎡、建築面積70㎡。

1階は受け付けやラウンジ。2～8階が各階2室の総客室数14室、外観は木の縦格子で覆うなど和の要素を採用する。2022年度には、春吉2～3丁目内に2号目と3号目案件が着工予定。

すでに春吉地区では第6号案件まで用地取得済みで、順次建設を進めていく。

完成後は宿泊施設管理の関連会社、㈱KASANE（福岡市）が運営。「将来的には主軸の不動産売買に並ぶ事業の柱に据えていきたい」と大重社長は目を輝かせる。（福岡経済WEB記事から抜粋）

